

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101687		
法人名	有限会社 マインド		
事業所名	グループホーム 愛の郷		
所在地	山口県下関市一の宮東町3丁目380-1		
自己評価作成日	令和4年7月18日	評価結果市町受理日	令和4年11月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
調査実施日	令和4年8月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1.当施設では、利用者の方にラドン泉を満喫して頂いている。
2.季節の変化を五感で感じて頂き、静かな環境の中、ゆっくり利用者の方のペースで日常生活を送っていただいている。
3.利用者一人ひとりの笑顔を大切にし、地域の一員として毎日の生活を安心して過ごして頂けるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出支援が困難な中で、花見に出かけられないならば、屋内を飾り付け、桜餅を食べて花見をした気分になったり、大勢での行事ができなければ、ユニット毎の夏祭りや、金魚すくいや輪投げ、菓子釣りゲーム等を企画されるなど、職員が工夫を凝らされて、利用者が楽しむ機会を作っておられます。朝食と夕食は、利用者の好みを聞いて献立を立てられ、利用者と職員と一緒に作っておられ、事業所の畑で育てたサツマイモなどの野菜を使って、味見や盛り付けなど、利用者のできる力を発揮できるよう支援されています。おやつ作りや季節の行事食、本人の希望を取り入れた誕生日食など、会話を楽しみながら、利用者の笑顔を引き出しておられます。室内、物品、手指等の消毒も念入りに行われ、職員自身も感染をしないように、体調管理を徹底して、支援に取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念をホール・事務所に掲示して職員と一緒に共有する事で実践に繋がるように努めている。理念を記した歌を利用者と共に唄い実践につなげていけるように努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。理念をわかりやすい歌詞にし作曲した歌(2曲)を、利用者と職員が、毎日、一緒に歌って理念を共有している。月1回の勉強会の場で理念について話し合い、利用者のできる力を活かし、笑顔でのびのびと暮らしていけるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はなく、例年であれば地域行事(夏祭り)に参加したり幼稚園児との交流や民生委員の方の歌を事業所内で披露して頂いていたが現在はコロナウイルスの感染予防の為、交流が出来ていない。	自治会に加入し、自治会長を通して地域の情報を得ている。コロナ禍の為行事が中止となり、例年のような地域とのつきあいが制限されている。月1回、来訪する理髪店と馴染みとなり交流を続けている。散歩時に会える地域の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、地域の一員として交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で起きた事例をもとに、認知症の理解・協力を努めている。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	一部の役員以外の職員に自己評価を実施している。また、評価をもとに課題を再度確認し、改善点を考え、より良いケアに繋がるように取り組んでいる。	管理者は、職員に評価の意義を月例会で説明し、自己評価のための書類を職員全員に配布して記入してもらい、各リーダーが話し合っまとめている。職員は自己評価を日々のケアの振り返りと捉え、コロナ禍で外出が制限されている中、季節感を感じてもらえるように、鯉のぼりやひまわりの花等の壁飾りを作ったり、提灯をつるすなど、利用者と一緒に雰囲気づくりに取り組んでいる。前回の外部評価結果を受けて、応急手当や初期対応の勉強会を行い、対応事例を取り入れるなど、改善に取り組んでいる。職員からは、評価にかかわる文言や意味が分からないとの意見があり、全職員が評価の意義の理解と活用ができているとはいえない。	・評価の意義の理解と活用	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染予防の為、運営推進会議は行っていないが入居者の状況や行事報告等を行っている。	コロナ禍の為、年6回、書面開催とし、利用者の状況や活動状況、行事予定を文書で報告している。文書送付後、電話で意見を聞いているが、メンバーからの意見は得ていない。	・メンバーからの意見を得るための工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出書類等、運営上の疑問が生じた場合は、電話や直接出向く等して相談や助言を頂いている。	市担当者とは、電話や直接出かけるなどして情報交換を行い、申請内容や手続き、市のサービス、困難事例などについて相談を行い、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは電話や直接出かけて情報交換をして、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関に直面している道路は、交通量が多く安全確保の為、玄関に鍵をしているが時間帯に応じて施錠しないように取り組みをしている。 また内部研修にて身体拘束について理解が出来るよう努めている。	職員は、「身体拘束等適正化のための指針」に基づいての内部研修や、3か月毎に実施している「身体拘束適正化委員会」の事例検討の申し送り学び、身体拘束、虐待の内容や弊害について正しく理解している。スピーチロックやドラックロック、フィジカルロックについて、日頃から管理者が指導して、身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいる。利用者の状況に応じて、玄関の施錠をしているが、外出したい利用者があれば、職員と一緒に玄関先を散歩する等、気分転換の支援をしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会資料をもとに内部研修を行い、対応方法や、防止策等について学ぶ機会を作っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している入居者の方がいる為、資料を事業所内に置き、いつでも見ることが出来るようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に苦情窓口についての説明を行っている。意見箱を設置することで家族からの意見を確認している。又、意見等については職員にも報告し運営に反映できるように心がけている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に十分に時間をとり説明を行い質問にも応じている。安心して利用をして頂くために疑問等あれば、その都度対応し理解を得るようにしている。	相談、苦情の受付体制や外部機関を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時、電話、手紙等で意見や要望を聞いている。玄関に意見箱を設置している。意見や要望は申し送りノートに記録して、職員間で共有している。3か月に1回、事業所だよりを家族に送付したり、面会時に利用者を担当している職員が時間を設けて、利用者の様子を伝えるなどして、家族が意見が言いやすいように工夫している。家族からは「面会したい」との要望があり、窓越しに携帯電話を使つての面会を実施している。個別の要望にはその都度対応して、ケアに反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、月例会を行い、日常の業務について職員の意見を聞くようにしている。	管理者は、申し送り時や月1回の月例会、係業務(事故、行事、レクリエーション等)を通して職員の意見や提案を聞いている。日頃から管理者がら職員に言葉をかけて意見が言いやすい雰囲気づくりをしている。職員の意見から、利用者のトイレ使用後の手指消毒のために、職員が消毒用スプレーを常時携帯するようにしたり、利用者への投薬の方法を統一をする等、職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時には、事前に希望休を確認。利用者や職員の状況に応じ、就業時間、補助等の調節を他職員の協力のもと実施している。外部研修は勤務の一環として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やスキルに応じて、出来る限り研修の機会を作るようにしているがコロナウイルスの感染予防の為、実施できていない。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。この1年はコロナ禍の為、参加していない。内部研修は、月1回、月例会の中で、職員が担当して、感染症の予防と対策、熱中症、身体拘束・虐待防止、認知症、リスクマネジメント、介護技術、倫理・法令、接遇、入浴・食事介助等について実施している。毎回、併せてケース検討を行っている。新人は、日々の業務の中で、管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。資格取得の支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しブロックの研修会等で交流を図っていけるように努めている。		
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前の面談時に本人や家族の方に話を伺い、本人が置かれている状況が理解できるように努めている。思いを受け止め、安心して頂くことで信頼関係が築いていけるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話等で家族と会話する時間を作り、話を傾聴する事で家族の思いを知り寄り添う事で、いつでも相談が出来るような人間関係作りに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報や本人・家族との会話からニーズを見極め、優先順位を考えながらサービスの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の些細な会話の中から本人の思いを見つける様に努めている。共に過ごし共に考えていける関係性を築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルス感染予防の為、行事参加や外出等を行えていないが、通院は家族、利用者との交流が図れるように協力をお願いしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの感染予防の為、面会を行えていないが、手紙や電話での交流が出来るように支援を努めている。	面会の制限がある中でも、家族とは携帯電話を使って窓越しの面会ができるよう工夫している。電話や手紙、年賀状での交流を支援している。日常の会話の中で、地域の情報を取り入れたり、思い出話を語ってもらうなどしている。定期的に来訪する理髪店の人と馴染みとなって交流するなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を把握し、席を配置する事で孤立することがないよう、職員も会話の中に入り利用者同士が交流を図れるように努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて本人や家族の相談に応じれるように努めている。		
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活上の会話から本人の訴えや行動を記録し、毎月の月例会やカンファレンスの際に具体策を決定し実践している。	入居時に基本情報や本人、家族の思い、暮らし方の意向、趣味、嗜好、好きなものなどを聞き取り、フェイスシートに記録して活用する他、日々の関わりの中で、利用者が笑ったり、話が盛り上がった場面など、表情や言葉、対応等を記録して、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な場合は、月例会やカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネジャー、利用者から情報を収集しフェイスシートを作成、入居前の様子が把握出来る様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス提供記録、健康チェック表をもとに、利用者1人1人の1日の様子を把握するようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当職員を中心に、ケアカンファレンスを行い、計画作成担当者、職員、本人、家族の意見を介護計画に反映し現状に即したプランを作成している。	利用者を担当している職員を中心に、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の思いや意向、主治医や看護師、計画作成担当者の意見を参考にして、職員間で話し合い、介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを実施し、計画を見直している。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を作成し、日々の様子や実践結果、利用者の反応等を記録し職員同士で情報共有している。記録については、出勤時に職員は目を通すようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、医師の指示のもと施設の看護師が必要とする処置や内服調整を行っている。ビューティーヘルパー訪問により整髪をしたり家族の支援が得られない方は受診の支援を行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花畑や野菜畑等を活用しながら、利用者の方が毎日楽しく暮らしていける様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方の希望を尊重し主治医を決めている。馴染みの医師による継続医療を希望する場合は、情報を提供し適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関をかかりつけ医としている方は、月に2回訪問診療を受けており、受診記録に残すことで職員、家族と情報を共有できるように努めている。	利用者や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月2回の訪問診療がある。その他のかかりつけ医や他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は必要に応じて訪問診療がある。受診結果は往診記録や受診記録に記録して職員間で共有し、家族には電話で報告をしている。看護師は利用者の健康管理を行い、受診時には医師へ情報提供をしている。緊急時には協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師も介護職員の一員として利用者の方と関わるようにし異常の早期発見に努めている。利用者の方の変化に気付いた際には、記録に残し相談をする事で必要時は受診が出来る様に努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族への経過報告や病院への情報提供を行っている。 入院中は、家族と連絡をとり情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所で出来る対応について説明、同意を得ている。 重度化した場合は、家族の希望を確認した上で、医師、看護師、管理者に相談を行い今後の方針について検討している。	契約時に、重度化した場合に事業所でできる対応について、家族に説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から、本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、事故報告書を作成し、事故の原因を明確にするとともに再発防止策の検討を行っている。月例会議の際に再度、再発防止後の経過について話し合いを行っている。応急手当、初期対応の訓練については、まだ全職員が実践力を身につけているとは言えない為、訓練が必要である。	事例が生じた場合は「ひやり！はっと！アクシデント報告書」に発生状況や経過、再発防止策等を記録して、職員間で回覧して周知し、月1回の月例会議時に再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。職員は、内部研修で意識レベルのチェック方法、救急車依頼の判断、出血、やけどの応急手当、感染症(コロナへの対応)、熱中症等について学んでいるが、すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練や勉強会を行っているが全職員が避難方法を身につける所まで至っておらず、火災以外の訓練についても出来ていない。水害時の避難方法は消防署から指示を受けている。	年2回、昼夜の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方について訓練をしている。当地域は浸水地域であることから、水害時は、事業所の2階を避難場所とするように消防署から指示を受けており、地域の人の水害時の避難場所となっている。コロナ禍の為、避難訓練に地域からの参加は得ていない。災害時の地域との連絡網は未整備である。	・地域との協力体制の構築
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりが人生の先輩である事を考えて敬意をもった言葉がけで対応している。言葉かけの仕方について気になる事があれば職員同士で注意しあうようにしている。	職員は、内部研修(倫理、接遇、身体拘束と虐待防止)で、人格の尊重とプライバシーの確保学ぶと共に、代表者による「理念を実践することが利用者の尊厳を守ることにつながる」という、常日頃の指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者により個人差はあるが、ゆっくり話をする時間を作り、本人の思いや希望を聞き、記録に残す事で情報を共有しケアにつなげていけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日一日利用者のペースを大切にしながら関わっている。利用者と話す時間を作り、その人らしく生活を送る事が出来る様に支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ビューティーヘルパーの訪問を受けており、散髪や髪染めの希望を毎月利用者に確認し行っている。男性は髭剃り、女性はお化粧をする事で身だしなみを整え、おしゃれが出来るように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力によって食事の下ごしらえや盛り付けを手伝って頂き、料理の楽しみを作っている。施設の畑で収穫した野菜を使って料理を作ったり、利用者の誕生日には本人が食べたい料理を作ってお祝いをしている。	朝食と夕食は利用者の好みを聞いて献立を立て、事業所で調理している。昼食は法人の配食を利用し、利用者と職員が同じ食事をとっている。利用者が食べやすいように食器や形状(つぶす、刻む、トロミ)の工夫をしている。利用者は野菜の下ごしらえや切る、味見、盛り付け、お茶くみ、配膳、食器を洗う、食器を拭く、トレイを拭く、テーブルを拭くなど、できることを職員と一緒にしている。地域の人からの旬の果物やお菓子の差し入れを提供している。季節の行事食(おせち料理、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン、夏祭りの焼きそばやたこ焼き、やきとり、年越しそば)、おやつづくり(鬼の形のシュークリーム、カステラの鯉のぼり、ホットケーキ、プリン、ミニパフェなど)や、好きな献立とケーキを選べる誕生日食など、食事が楽しみなものになるように工夫している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムパターンシートを活用し食事量や水分量を記録の上、確認している。体重測定を定期的に行い、状況に応じて医師に相談をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、清潔が保てるようにしている。拒否の強い方はうがいを促している。また、状況に応じ、歯科受診(往診)を依頼しケアの仕方について指示を仰いでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活リズムパターンシートを活用しながら、排泄のリズムを確認するようにしている。トイレでの排泄が困難な方に関しては声かけや誘導の工夫をしながらトイレでの排泄対応を行っている。	生活のリズムパターンシートを活用して、利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の体重から1日の必要水分摂取量を計算し、目標摂取量分の水分を促している。便秘傾向の方は、医師、看護師へ相談し内服での排便調節を行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前または午後に、利用者の状況に応じて入浴を行っている。入浴を拒否される方に対しては、時間をかけて気持ちの配慮を行い対応の仕方を工夫する事で入浴できるように支援している。	入浴は、9時から11時と13時30分から15時30分までの間とし、希望すれば毎日、温泉入浴(ラドン温泉)ができる。順番や湯加減等、本人の希望に合わせてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には、無理強いしないで、時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムパターンシートを活用し、睡眠パターンの把握をしている。昨夜不眠の方、倦怠感がある方に関しては、昼夜問わず自室で休憩を促し、ゆっくりとして頂いている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表と薬情を一緒にファイルにセットし、いつでも内容を確認できるようにしている。薬の変更時は、ノートに記録し情報を共有する事で状態の変化を観察し医師、看護師に報告するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味や特技を活かし、毎日楽しく生活を送る事が出来るよう、個々の能力に応じた役割を作っている。	季節行事(職員手作りの鳥居と賽銭箱での初詣、節分の豆まき、雛祭り、室内でのお花見会、端午の節句、七夕会、夏祭り、敬老会、クリスマス会等)、テレビやDVDの視聴、CDを聞く、新聞や雑誌、本を読む、ぬりえ、切り絵、貼り絵、理念を歌う、季節の壁面飾り(桜、藤、朝顔、りんどう、紅葉等)づくり、パズル、諺遊び、しりとり、脳トレ(計算、漢字ドリル)、ハーモニカ演奏、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、、テレビ体操、リハビリ体操、口腔体操、居室やホールの掃除(掃除機を使う、モップや箒で床を掃く、拭く)、リネン(枕カバー、シーツ)交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を替える、食事の準備や片付け、水やり、草取り等、利用者一人ひとりの喜びや活躍できる場面を多くつくり、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの感染予防の為、外出支援は行えていない。	事業所敷地内を散歩して通路に植えているひまわりやコスモスを眺めたり、ウッドデッキに出て木々を眺める、畑の水やりや草取りをし、サツマイモやミニトマト、きゅうりなどの収穫をする、天気の良い日には窓を開けての外気浴をするなど、戸外で季節を感じられるように支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理の難しい方に関しては、買い物をする際に職員がお金を手渡し支払いをして頂いている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安感の強い時や本人が電話を希望された際は、状況に応じて電話の使用が出来る様に対応している。また、年賀状での手紙のやり取りも行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わって頂く為に、ホールに花を飾ったり行事の写真を飾ったりしている。 居室やトイレは、分かりやすいように表札や張り紙を貼っている。 心地よく過ごせるよう空調や彩光調整を行うようにしている。	ホールは天井の梁を見せた広々とした空間となっている。室内には季節の花を飾り、壁面には季節の壁面飾り(桜、朝顔、紅葉等)や活動時の写真、紙細工の作品などを飾っている。西日を柔らかくする簾に季節の飾りつけをしている。テレビの前にはソファを配置し、横になれる畳室や、周辺の木々の緑を眺められるウッドデッキなど、利用者は思い思いの場所で過ごすことができる。台所からは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気、清潔に配慮し、1日2回、定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファや椅子を設置し、ゆっくりとくつろげるスペースを作っている。 テーブルの位置や椅子の配置を工夫し、利用者同士の関係性に配慮した環境作りに努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険となるもの以外は、利用者の慣れ親しんだ物を持ち込んで頂いている。 家族写真や愛用の物を置く事で安心して過ごせる空間作りに努めている。	ベッドやテレビ、時計、寝具、衣装ケース、衣装スタンド、机、籐椅子、本や雑誌、鏡、整容道具等、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、誕生日の色紙や自作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、出来る限り安全で自立した生活を送る事が出来る様に工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 愛の郷

作成日: 令和 4年 11月 7日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	職員は内部研修で意識レベルのチェック方法や救急車以来の判断、応急手当等について学習し学ぶ機会をつくっているが、すべての職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員に対して定期的に応急手当や初期対応を身につけられるように勉強会を行い実践で活かせるようにする。	①内部の勉強会で応急手当や初期対応の勉強会を引き続き行う。	12か月
2	36	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行っており、水害時には事業所の2階を避難場所とするように消防署から指示を受けており地域の避難場所になっているがコロナ禍のため、避難訓練で地域住民との参加はなく、今後、災害時の連絡網や地域との協力体制の構築ができていない。	災害時の地域住民との協力体制の構築をおこなっていく。	①運営推進会議にて地域の方々と災害時における連絡網や避難場所経路等の情報を共有を行う。 ②年2回の昼夜及び夜間想定訓練の実施を継続。	12か月
3	5	運営推進会議はコロナ禍のため、書面開催として活動状況を報告しているが、メンバーからの意見は得ていない。	運営推進会議のメンバーに意見を出していただけるように通知し会議に活かせるようにする。	①コロナ禍で運営推進会議の開催は難しい状況ではあるが、こちらから意見を求めるように心がけていく。	12か月
4	4	月例会で職員に評価の意義を説明し配布、記入をしてもらっているが、評価にかかわる文言や意味が解らないとの意見があり、全職員が評価の意義の理解と活用ができていない。	全職員が外部評価及び自己評価の意義を理解し活用できるようにする。	①職員が記入時、不明な文言や書き方がわからないときは管理者に質問してもらい、その都度管理者はわかりやすく意味の説明をする。	12か月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。